

服のチカラ

THE POWER OF CLOTHING

[特集]
使い捨て
プラスチックを
減らすために

エコバッグ、
持っていこうね



21

ユニ
クロ UNI
QLO

LifeWear



プラスチックの 何が問題なの？

世界の海には1億5000万トンのプラスチックごみが溜まっていると推測されています。21世紀に入り、使い捨てプラスチックの使用量が世界各地で急速に増えているのが、最大の原因です。その海へさらに、年間800万トンのあらたなプラスチックごみが流れ込んでいます。ジャンボジェット機に換算すると約5万機分。このままでは、生物よりもプラスチックごみのほうが多い海になりかねません。プラスチックごみが海の生態系を壊せば、私たちの暮らしにもはかり知れない影響が及ぶことになります。



プラスチックの価値と用途

冷蔵庫や洗濯機などの家電製品、自動車や飛行機などの乗り物にもプラスチックは使われています。耐久性を高め、軽量化を可能にし、石油や電力などのエネルギー使用量の削減にも貢献してきました。医療の現場では、点滴バッグ、注射器をはじめとする衛生管理が重要不可欠な、一回使用の医療器具の素材としても使われています。

減らすべきプラスチック

使い捨てプラスチックを減らす

お店のなかだけでの使用や、お店で受け取り、利用後に捨てられるもの。レジ袋。ペットボトル。ストローなど。海に流れ込むごみとしても、使い捨てプラスチックが、膨大な量となっています。





a ショッピング バッグ

▶プラスチックのショッピングバッグは廃止します。
9月より順次、紙のショッピングバッグ
(森林管理協議会=FSC®認証紙もしくは再生紙を使用)に変更し、
店頭でコットン素材のエコバッグも販売します。
2020年1月14日から、ショッピングバッグは有料化いたします。

ユニクロの主な
使い捨てプラスチックと
これからのこと



b 商品 パッケージ

▶ヒートテック、
エアリズムなどの包装は、
2020年秋冬までに
60%削減を目指します。

d シャツの クリップ

▶使用量の削減や、
代替品を研究中です。



その他にも、サイズシール、輸送時の梱包材など、使い捨てプラスチック製品
について、使用量の削減や、環境配慮素材への変更を検討中です。

c ハンガー

▶ブラトップなどで使用される
使い捨てのプラスチックハンガーは、
リサイクル使用や、環境配慮素材へ
の変更を目指しています。



すぐに始められること

国際連合環境計画(UNEP)・
国際環境技術センター(IETC)所長
キース・アルバーソン博士インタビュー



1950年には、私たちの生活のなかにプラスチック製品はありませんでした。ところがこの10年でプラスチックごみは加速度的に増え、大きな問題となっています。

たしかにプラスチックは安く、便利で、使い勝手のよい素材です。暮らしのあらゆる場面で活用されるのは必然的なりゆきです。しかし、使用後の処理が追いつかないのです。

プラスチックごみは川や湖、海に入りこみ、さまざまな負荷を与えます。ニュースで報じられているように、浜辺に打ち上げられた死んだクジラを解剖すると、胃袋から何十キロものプラスチックごみが出てきたりしています。

海洋生物に負の影響を与え続ければ、海全体の生態系を損なう事態が進行します。もちろん人間にも何らかの影響が出てくるでしょう。

しかし、現代の生活はプラスチックを使うことで成り立っている側面があります。それは認めねばなりません。必要不可欠な部分もあるのです。そして、種類や用途も多様です。繰り返し、長期にわたって使われるものもあります。飛行機、自動車、列車、身近な日用品でも使われている。たとえばあなたが救急車で病院に運ばれて、点滴を受けるとしましょう。点滴液の袋は、使い捨てプラスチックです。注射器も同じ。医療器具については再利用の取り組みも一部で行われていますが、基本的には一回利用で廃棄されます。感染症などのリスクを考えれば、やむを得ません。

一般的に言って、すぐに始められるのが、レジ袋の削減です。一回だけ使ったら、そのまま捨てられてしまうからです。各自でマイバッグなどを用意して、買ったものを入れて持ち運べばいいのです。レジ袋を止めるのは、個人の判断で、大きな負担もなく、すぐにできることです。しかも、その効果は絶大です。

これを機会に、プラスチック製品の用途や意義について認識を深めていただくことも、プラスチック削減の動機になるかもしれません。

プラスチックごみを減らす緊急性は非常に高いです。ただ、全世界に共通で同時に実行すべき、たったひとつの解決策があるわけではないのです。国や都市によって、廃棄物の管理能力には差があります。焼却処分場にしても、排ガス対策が行われているのか、不十分なのか。国策でレジ袋を禁止したものの、貧困層がレジ袋をトイレ代わりに使っていたために、あらたな問題が生じた例もあります。それぞれの地域の状況に応じて、できることから、実際的な対策をとる必要があります。

多くの民間企業が、プラスチックの削減を強く意識し、グローバルな規模で積極的に動き始めています。民間企業だからこそ自由に、スピード感をもってできるはずですし、大量に使われているものを減らすこと自体に、社会的なインパクトもあります。企業がまず率先して実行する。社会全体を牽引する原動力に、ぜひなってもらいたいと思います。



川や海のごみを回収してわかったこと

大阪商業大学公共学部公共学科
原田禎夫准教授インタビュー

NPO法人 プロジェクト保津川 <https://hozugawa.org>



昨年「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を出した京都府亀岡市には、400年以上も続く「保津川下り」があります。水運として始まり、今も人気の観光川下りとして続いています。

その船頭さんたちが「川のごみに困っている」と相談にいらしたのが、12年前。私は水道の研究をしていましたが、川のごみについてはまったく知りませんでした。調査に行ってみたら、あまりのごみの多さに驚きました。船頭さんたちだけではとても掃除しきれない量でした。

私も保津川の流域で育った人間ですから、何とかしなければ、と思い、地元の方々と「プロジェクト保津川」を立ち上げました。川の環境保全への取り組みです。

まず、地域のみなさんと「ごみマップ」調査を行い、実態を把握しました。圧倒的に多かったのはレジ袋とペットボトルです。2012年には地域の未来を担う子供たちと「こども海ごみ探偵団」も始めて、今日に至っています。

ごみの分別をしっかりやって、リサイクルもしているのに、どうして大量のごみが日本の川に？と不思議に思われるかもしれません。

ところが日本は、使い捨てプラスチックの1人当たりの使用量が、世界で2番目に多いんです。1億2000万人の手からこぼれ落ちたごみが集まれば、驚くような量になります。そもそもプラスチックごみは軽いので、ごみの集積場の管理が悪ければ、ネコやカラスが散らかしたり、強い風が吹き、雨がふればやがて、川に

流れ込んでしまいます。

プラスチックごみの増え方は急激です。国内のリサイクル能力をすでに超えています。国外に輸出して処理していたのも、押し付けにすぎず、根本的解決ではありません。受け入れ国も規制が厳しくなり、断られ始めています。

川に集まったごみは流れ流れて、最終的に海までたどり着きます。保津川は途中で名前を変えながら、最後には大阪湾に流れ込みます。大阪湾には推定でレジ袋300万枚が海底に沈んでいることがわかりました。もちろん浮遊していたり、劣化して細かくなり数えられないものもあるので、実際にはもっと多いはず。社会全体で、今すぐに減らそう、止めようと考えたら、かなりの量のごみを減らすことができるのです。

レジ袋をやめることに、抵抗を覚える方もいらっしゃるかもしれませんが、端的に言えば、ごみになるレジ袋の実態をご存じないからです。今は小学校での清掃工場見学などを最後に、ごみ問題を勉強する場がありません。大学生ですら10年前の知識で止まっているのが現状です。

脱プラスチックが、地域経済の成長に寄与する可能性もあります。たとえば亀岡市では繊維産業、紙・パルプ業も盛んです。レジ袋に代わる紙袋やエコバッグが地域経済を元気にする可能性もあります。

この10年で急激に増えたごみを、今のうちに少しでも減らす。子供たちの世代に対する、私たち世代の責任だと思っています。



第3日曜日開催の「保津川クリーン作戦」には、大勢のボランティアが駆けつける



「川下り」で有名な保津峡のプラスチックごみ



大阪湾

下:大阪湾での底引き網漁にはたくさんのレジ袋がかかる(関西広域連合提供)



エコバッグの利用が 地球環境のサステナビリティに

海に流れ込むプラスチックごみが大きな問題となっています。

なかでも、店頭で渡されるレジ袋やショッピングバッグは、海のプラスチックごみに大量に含まれていることがわかってきました。

たとえばレジ袋は、海洋生物が誤って飲み込んでしまったり、手足や首などに絡みついて取れなくなったり……さまざまなかたちで、海の生態系を脅かす元凶になっています。

レジ袋やショッピングバッグは軽くて丈夫で便利です。しかし、店から家に持ち帰られて、役割を終えると、捨てられる運命。つまり「使い捨て」のプラスチックなのです。

レジ袋やショッピングバッグは分別ごみに仕分けして出しているのだから、回収されて、再生資源になっているのでは？ と疑問に思わ

れる方もいらっしゃるでしょう。

資源ごみとして回収、再生され、活用されているものも少なくありません。しかし、21世紀に入ってから、全世界的に同時に大量に出回って使われるようになった使い捨てプラスチックは、資源として回収、再活用されることなく、ごみとして川や湖、海へと流れ込んでしまう、その割合が加速度的に増えてしまったのです。

このような状況になってしまった以上、根本的な解決が求められます。つまり、一回限りの使用でごみになってしまう「使い捨てプラスチック」製品は、できる限り使わない、つぐらない、という判断、そして、その実行です。

これまで、ユニクロでは「使い捨てプラスチック」を使ってきました。店頭でお客様に手渡される白いショッピングバッグばかりではなく、

店頭で商品を陳列させるための商品パッケージ、サイズを示すシール、シャツを整えるクリップ、ブラトップなどに使われているハンガー……これらのものはすべて、一回限りの「使い捨てプラスチック」製品です。

なかでも、使われる量が多く、削減効果が大きく期待できるのは、白いショッピングバッグです。私たちはまず、ここから始めようと考えました。

2019年9月から順次、プラスチック製ショッピングバッグを廃止します。その代替品として紙のショッピングバッグ(森林管理協議会＝FSC認証紙もしくは再生紙を使用)をご用意し、コットン素材のエコバッグも販売を開始します。2020年1月14日からは、紙のショッピングバッグも有料化いたします。

これ以外の使い捨てプラスチックについて

は、プラスチック製品に代わる、環境に負荷をかけない代替品の検討、研究を始めています。

ユニクロが目指している、「シンプルで上質なLifeWear」には、長く使える服をお届けするポリシーと、シンプルなライフスタイルの提案と願いがこめられています。海に押し寄せるプラスチックごみを減らすため、お客様がすでにお持ちのトートバッグや、ユニクロでご用意するエコバッグを持参いただく。こうしてプラスチックごみをつくりださないライフスタイルが定着していけば、地球のサステナビリティに貢献することができるのです。

その第一歩を、私たちユニクロは、お客様とともに踏みだしたいと願っています。

ご理解とご協力をいただければ幸いです。



ユニクロは始めます



1 プラスチックのショッピングバッグを廃止します。

▶ご自身のエコバッグをお持ちでしたら、持参の上、ご来店ください。
お持ちではない場合には、10月から店頭でコットン*素材を使用したエコバッグの販売(190円)を開始しますので、ご利用ください。



2 プラスチックの商品パッケージを廃止、または環境配慮素材に変えていきます。

▶2019年、まずはルームシューズの商品パッケージの廃止から始めます。

before



after



*コットンの取り組み:
ユニクロはBCI(ベター・コットン・イニシアチブ)をサポートしています。
BCIは人の健康と環境に影響を与える水と農薬の使用量を減らし、
土壌の改善、農家や綿花生産労働者の労働環境を整え、
よりサステナブルな綿花生産を推進するための組織です。
<https://bettercotton.org/>



服のチカラを、社会のチカラに。

よい服をつくり、よい服を売ること
世界をよい方向へ変えていくことができる。
私たちは、そう信じています。

よい服とは、シンプルで、上質で、長く使える性能を持ち、
あらゆる人の暮らしを豊かにできる服。

自然との共生を考え、つくられる過程で、
革新的な技術を使い、地球に余計な負荷をかけない服。

健康と安全と人権がきちんと守られた環境で、
いきいきと働く多様な人々の手づくり届けられる服。

そして、よりよい社会を願うお客様と共に活動し、
地域との共存共栄を目指していく。

私たちは、服のビジネスを通して、
社会の持続的な発展に寄与できるよう、
新たな基準をつくり、
不断の努力をもって進めていくことを約束します。

<https://www.uniqlo.com/jp/sustainability/>

ユニクロのサステナビリティをめぐる活動について、さらに詳しく。

ユニクロ サステナビリティ

